

第 2 期

# 文化薫る地域の魅力づくりプラン

概要版

平成 29 年 3 月

鹿 児 島 市

## 1 プラン策定の背景

文化芸術は、豊かな人間性や創造性等を育み、生活に潤いや活力をもたらすとともに、人と人を結び、地域の連帯感や一体感を醸成して地域の元気を創出するなど、個性豊かで魅力ある地域づくりにも大きな役割を果たします。

近年は、文化芸術が、教育、福祉、まちづくり、観光、産業等の幅広い分野と関連性を持つことでさまざまな波及効果を生むことが注目され、また、文化芸術を活用した取組に地域課題の解決策としての期待が寄せられています。

国においては、「文化芸術の振興に関する基本的な方針※」において、文化芸術等を活用した地域の活性化や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「2020年東京大会」という。）に向けた文化プログラムの全国での開催等、社会を挙げての文化芸術振興が必要であるとしています。

本市においては、平成30年の明治維新150周年、平成32年の鹿児島県における国民体育大会等、今後本市の文化情報を発信するさまざまな機会が訪れます。これまで、第1期プランにおいて、さまざまな文化振興に関する取組を行ってまいりましたが、さらに市民一人ひとりが、「心の豊かさ」や「まちの豊かさ」を実感できるよう文化芸術の持つ力を活用し文化振興の取組を進めていくことが必要です。

このようなことから、第1期に引き続き、第2期のプランを策定するものです。

※ 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針 平成27年5月策定）

文化芸術振興基本法に基づき、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進を図るため定められる方針。人口減少社会の到来に対する文化芸術等を活用した地方創生の実現や2020年東京大会に合わせた各種文化プログラムの実施などにより、我が国が目指す「文化芸術立国」の姿を明示している。

【我が国が目指す文化芸術立国の姿】

- ・あらゆる人々が全国様々な場で創作活動への参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ・2020年東京大会を契機とする文化プログラムの全国展開
- ・被災地からは復興の姿を、地域の文化芸術の魅力と一体となり国内外へ発信
- ・文化芸術関係の新たな雇用や産業が現在よりも大幅に創出

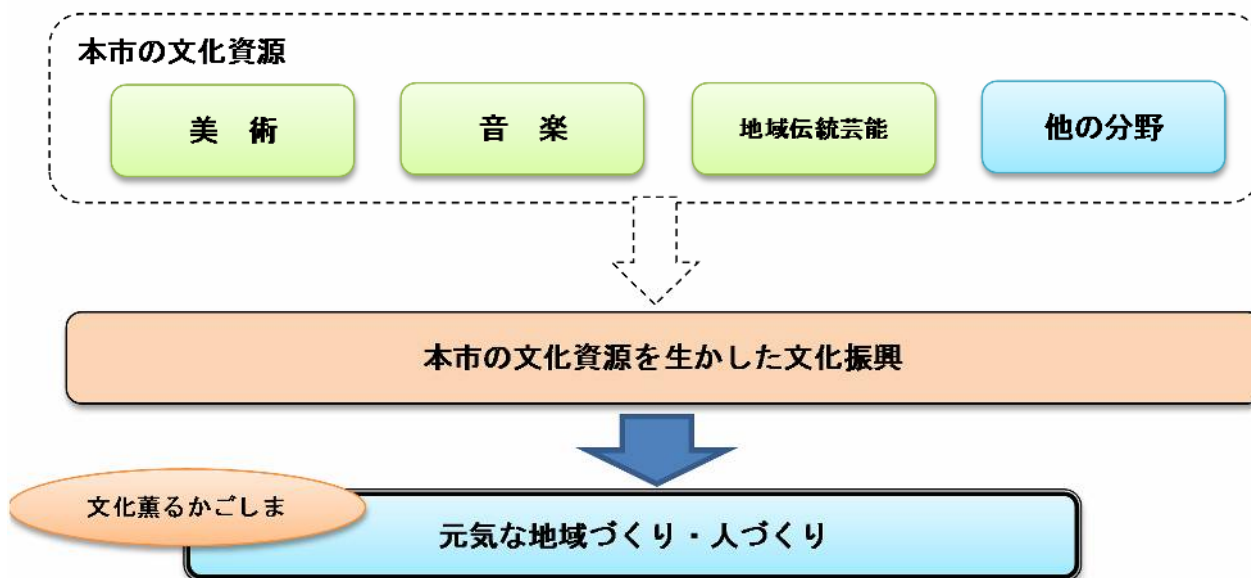
## 2 プラン策定の目的

本市は、黒田清輝、藤島武二、安藤照等の日本を代表する芸術家や美術収集家である松方幸次郎の出身地であることに加え、日本吹奏楽のさきがけである薩摩藩軍楽隊を生み出したことでも知られ、美術や音楽にゆかりの深い都市です。

また、市内各地には、これまで永年にわたって育まれてきた貴重な伝統芸能など豊かな地域文化が息づいており、都市化、少子高齢化が進む中であって、引き続きこれらの継承が喫緊の課題となっています。

平成27年には、日本最大の文化の祭典である国民文化祭が本県で開催され、本市でも、吹奏楽の祭典など14事業を主催し、参加者同士の相互交流や広く市民がさまざまな文化に身近に親しむ機会の提供が図られるなど、文化の裾野の広がりや次世代への継承に大きな弾みとなりました。

真に豊かさを実感できるまちづくりの実現に向けて、文化芸術は大きな力を発揮します。第1期のプランで取り組んできた「美術」「音楽」「地域伝統芸能」に他の分野も加え、本市の文化資源を生かした文化振興の取組を市民、NPO、事業者などと協働で引き続き推進することにより、さらなる文化薫るかごしまづくり、文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりを進めるため、本プランを策定します。



### 3 プランで対象とする文化活動の範囲

本プランで対象とする文化活動としては、美術、音楽、地域伝統芸能のほか、文化芸術振興基本法において国がその振興を図るものとして定めている分野も含め各種取組を進めます。

《文化芸術振興基本法に定める分野》

- ① 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踏その他の芸術
- ② 映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他電子機器等を利用した芸術
- ③ 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎その他我が国古来の伝統的な芸能

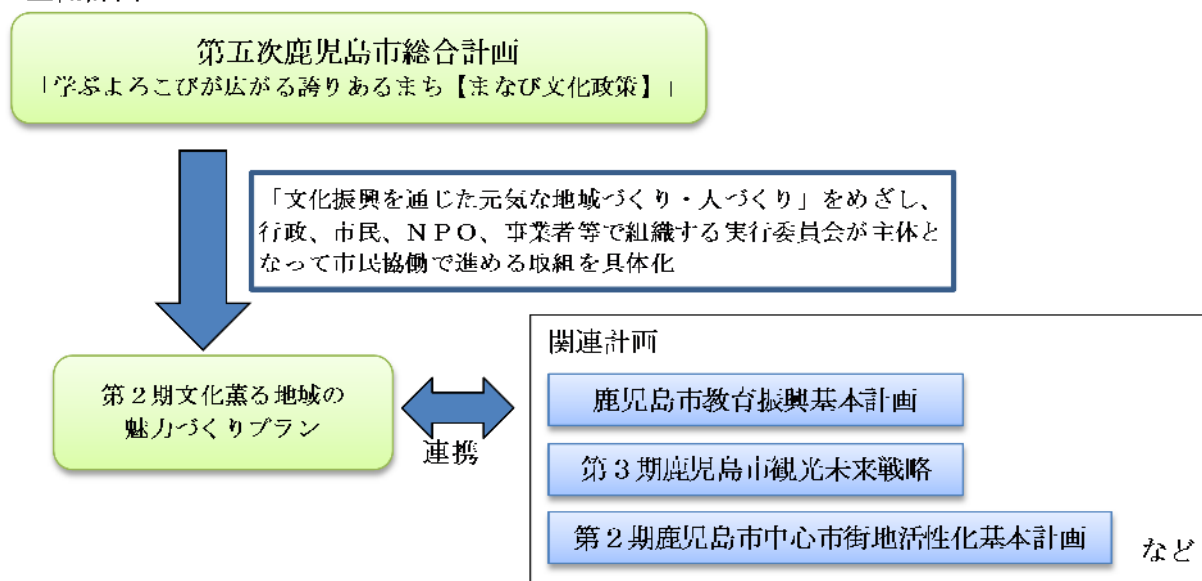
- ④ 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
- ⑤ 生活文化（茶道、華道、書道その他の生活に関わる文化）、国民娯楽（囲碁、将棋、その他の国民的娯楽）等
- ⑥ 地域固有の伝統芸能及び民俗芸能

#### 4 プランの位置づけ

第五次鹿児島市総合計画においては、都市像である「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」を実現するため6つの基本目標を定めています。第2期文化薫る地域の魅力づくりプランは、上位計画である第五次鹿児島市総合計画における基本目標「学ぶよろこびが広がる誇りあるまち【まなび文化政策】」の個別計画であり、その推進にあたっては、鹿児島市教育振興基本計画、第3期鹿児島市観光未来戦略、第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画等の関連計画との整合を図り、取組の連携に努めます。

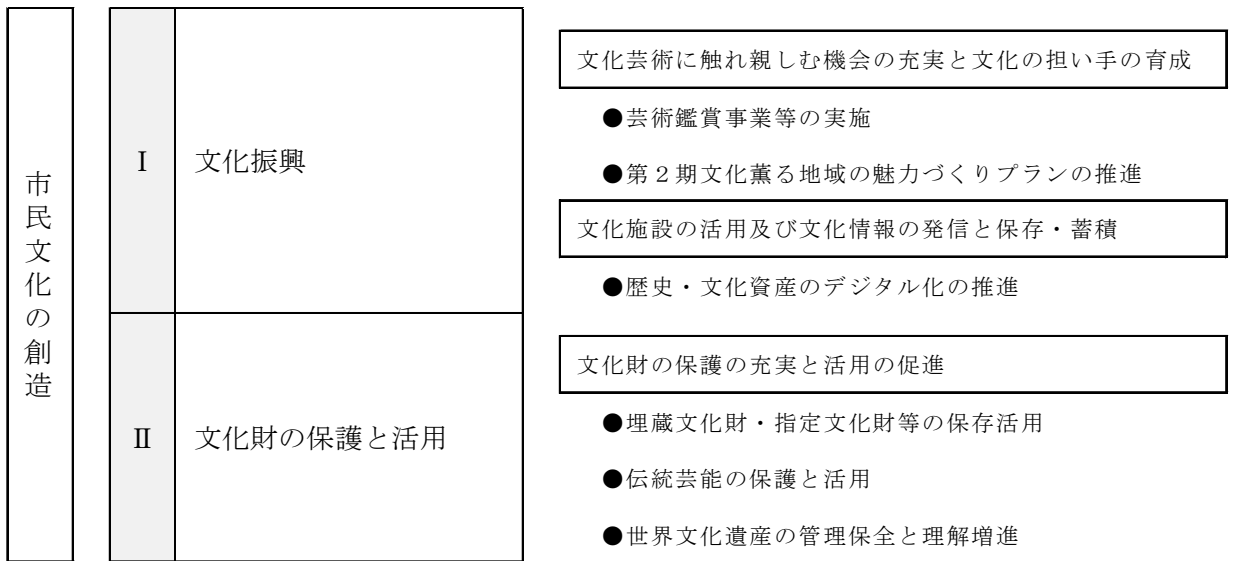
なお、本プランは、本市の文化行政全体を取りまとめた計画ではなく、「文化振興を通じた元気な地域づくり・人づくりにつながる取組を市民、NPO、事業者などと協働で進める」ための計画であり、全般的な文化行政については、【まなび文化政策】の「3 市民文化の創造」において（Ⅰ）文化振興、（Ⅱ）文化財の保護と活用を大きな柱として、各所管部署においてさまざまな取組を行っています。

上位計画



## 《総合計画における文化施策の体系》

「●」は「主な取組」



## 5 プランの計画期間

第五次鹿児島市総合計画の計画期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間で、第1期プランの計画期間は総合計画の前期基本計画期間に合わせて、平成24年度から平成28年度までの5年間としたことから、本プランの計画期間は、後期基本計画期間に合わせて、平成29年度から平成33年度の5年間とします。

## 6 第1期プランの振り返り

《第1期プラン体系》



第1期（平成24年度～平成28年度）の初年度となる平成24年度は、同プランの取組を広く周知するためスターティングイベント（⑩文化薫るかごしまづくりイベント）を実施し、平成25年度以降、各種取組を本格的に進めました。各分野の主な取組内容、成果、課題は以下のとおりです。



## (1) 美術分野

### ① 「質」を高める

- (ア) 主な事業
- ・ワークショップ等を行うアートサロンとしてかごしま文化情報センター（以下「KCIC」という。市役所みなと大通り別館1F）の設置・運営
  - ・アートの視点で創造力や地域の魅力を伝える電子書籍の発行やワークショップ等の開催



[KCIC オープン (H25)]



[古着のワークショップ (H25)]

### ② 広める

- (ア) 主な事業
- ・うわさプロジェクト（「うわさ」を通じて、まちや人の魅力を発信し、地域活性化につなげるアートプロジェクト）の開催
  - ・写真家 下菌詠子氏によるKCICオープニングポスタープロジェクトの実施



[うわさプロジェクト (H27)]

### ③ 集める、活用する

- (ア) 主な事業
- ・ギャラリーや美術館等のアートスポットを案内するかごしまアートナビの作成・活用
  - ・タブロイド紙の発行



[かごしまアートナビ]

(2) 音楽分野

④ 誰もが音楽を身近に楽しめる仕組みづくり

- (ア) 主な事業
- ・ まちなか音楽ステージ（まちなかで実施する吹奏楽を中心とする音楽イベント）の開催
  - ・ 音楽フランチャイズ制度（市民文化ホール等練習室の空き時間を音楽演奏団体等へ4箇月間貸し出す制度）の実施



[まちなか音楽ステージ]



[音楽フランチャイズ制度]

⑤ あかりや景観・歴史を音楽でつなぐプロムナードづくり

- (ア) 主な事業
- ・ 音とあかりの散歩道（景観を生かした音楽とあかりと伝統芸能のイベント）の開催



[美術館前庭]



[あかりの展示]



⑥ 地域の文化や四季の彩りを音楽でつなぐステージづくり

(ア) 主な事業 ・「夏のふるさとコンサート in 郡山」、「コスモス祭り in 喜入前之浜町」など、音楽と民俗芸能のイベントの開催（吉田、桜島、喜入、松元、郡山、皆与志の各地域で実施）



[コスモス祭り in 喜入前之浜町 (H25)] [夏のふるさとコンサート in 吉田 (H26)]

(3) 地域伝統芸能分野

⑦ 意義や本質を伝える媒体の作成

(ア) 主な事業 ・市内の民俗芸能を紹介するハンドブック（10,000部）、DVD（150枚）の作成



[「かごしま民俗芸能の楽しみ方」(DVD)]

⑧ 保存・伝承するための組織づくりと人材育成

(ア) 主な事業 ・伝統芸能ネットワーク会議、伝統芸能伝承サマーキャンプの開催



[ネットワーク会議]



[サマーキャンプ]

### ⑨ 伝統芸能を体感できる舞台と仕組みづくり

(ア) 主な事業 ・ 音とあかりの散歩道(再掲)、地域での音楽と民俗芸能のイベント(再掲)での伝統芸能の披露

#### (4) 分野横断

### ⑩ 文化薫るかごしまづくりシステムの設置・運営

(ア) 主な事業 ・ 文化情報の発信やプランの各種事業を推進するための活動拠点であるK C I Cの設置・運営

#### (5) 全体の総括(成果・課題)

##### ① 成果

- ・ 情報発信拠点としてK C I Cを設置し、文化情報の発信に努めたほか、アートに関するワークショップやまちなかでのアートプロジェクト等を実施しました。
- ・ さまざまな事業を通して、市民が美術、音楽、地域伝統芸能に触れる機会の創出や文化団体の活動の場、地元の演奏家や地域伝統芸能団体の成果発表の場を提供しました。
- ・ 「音とあかりの散歩道」においては、地元の6大学の学生を中心に地域の通り会や町内会等と、「地域での音楽と民俗芸能のイベント」においては、小学校を中心とした地域住民の方々と、それぞれ協働して事業を実施しました。
- ・ 市内の地域伝統芸能活動団体のネットワークの形成や活動休止中の地域伝統芸能が復活するきっかけをつくる等、各団体間の連携や保存伝承活動の支援を図りました。
- ・ 市内の地域伝統芸能を紹介するDVD、ハンドブックを作成し、地域伝統芸能の役割や成り立ちなどを情報発信しました。

##### ② 課題

- ・ 実行委員会の部会間の連携や情報共有を緊密に図ることが必要です。
- ・ プランで取り組むイベント等を効果的にPRするなど、市民への周知、浸透をさらに図ることが必要です。
- ・ 情報発信拠点施設であるK C I Cへ各分野から情報がうまく集約され、K C I Cの情報発信が分野により偏りが生じないように、また、情報の受け手が限られないよう取り組むことが必要です。
- ・ これまで取り組んできた美術、音楽、地域伝統芸能の3分野に加え、他の分野も幅広く取り入れた取組とする必要があります。
- ・ 今後の事業の推進にあたっては、地域住民や学生のほかに、市内の文化施設や文化団体等との連携をより深めていく必要があります。

- ・今後の文化の担い手である若い世代の各事業への参加を促進するとともに、その育成を図る必要があります。

## 7 第2期プラン策定に向けての視点

### ○文化の担い手の育成

本市の文化芸術活動を担ってきた個人、団体の構成員の高齢化や少子化の影響等により次世代の担い手不足が指摘され、運営に支障が生じるケースも見受けられます。若い世代が文化芸術に関心を持つためのきっかけづくりや、積極的に文化芸術活動に参加できるような取組の充実を図ります。

### ○地域住民や関係団体等との連携の強化

事業の推進にあたっては、実行委員会内のより緊密な連携をはじめ、地域住民や学生、NPOのほか、市内の文化施設や文化団体、本市の観光振興の所管部署等との連携をより深めます。

### ○国民文化祭等をきっかけとした文化振興の機運の高まりの継続

平成27年度に本県で開催された国民文化祭を受け、本市でも文化振興の機運が高まっており、この高まりを継続させ、さらなる文化振興を推進します。

### ○対象分野の拡大

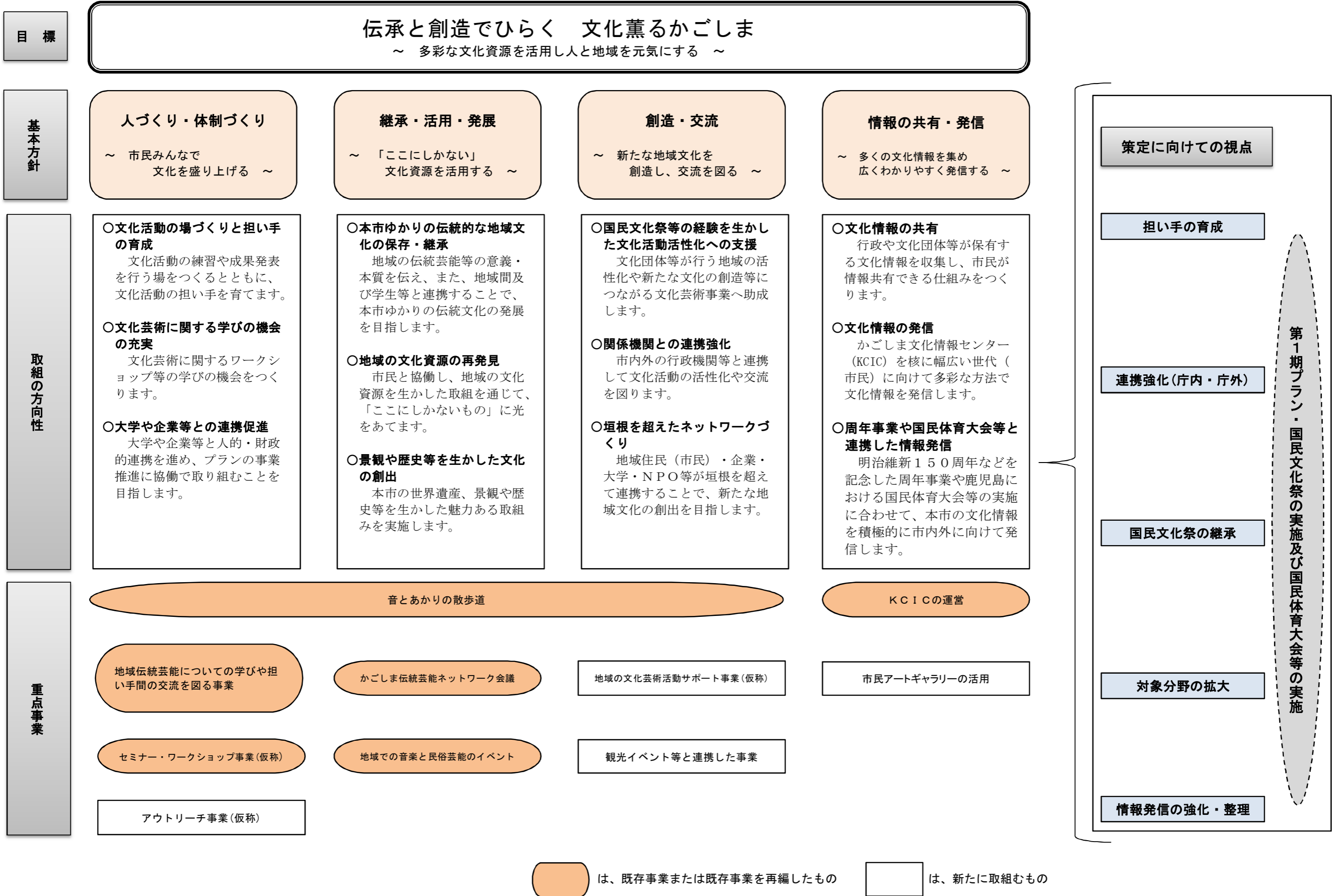
昨年の国民文化祭では、「吹奏楽の祭典」や「マーチングバンド・バトン・トワーリングの祭典」、「オーケストラの祭典」などさまざまな分野の事業を主催したほか、国指定伝統的工芸品である「薩摩焼」や「本場大島紬」のイベントなど、本市が持つ多彩な文化を県内外に広く発信することができました。文化振興をさらに進めるため、「美術」「音楽」「地域伝統芸能」の3分野に他の分野も加え各種取組を進めます。

### ○伝わる発信を目指す

KCICを核として、文化情報の収集・発信を行っていますが、市民が知りたい情報や市民に知らせたい情報を幅広く集約し、分かりやすく伝える情報発信が不足しています。市内外に鹿児島県の文化の魅力が伝わるよう、情報発信力を高めます。

### ○重点事業の統廃合や新たな取組の検討

より効果的な事業展開を行うために、第1期プランでの事業実績を基に事業の統廃合や見直しを行うとともに、新たな視点からの新規事業にも取り組みます。



## 9 重点事業の展開

### 基本方針1 人づくり・体制づくり ～市民みんなで文化を盛り上げる～

#### ●地域伝統芸能についての学びや担い手間の交流を図る事業

子どもたちに地域伝統芸能を知る機会を設けるとともに、地域伝統芸能を継承している地域においては、学校等の支援も受けながら、それぞれの地域に伝わる伝統芸能の背景や意義を学び実践する機会や他の地域の担い手との交流の場を設けるなど、学びや交流を通し、唄や踊りなど、地域に伝わる技や本質の伝承とともに、活動の活性化を目指します。

#### ●セミナー・ワークショップ事業(仮称)

第1期では、市民がアートに触れる、体験する事業として、県外からの<sup>しょうへい</sup>招聘も含め、アーティストによるワークショップやアートイベントの企画から実施までの一連の流れなどを学ぶアートマネジメントラボ、他の用務で来鹿した幅広いジャンルの著名人による講演会(つい de サロン)の実施など、さまざまな学びや実践の場を提供しました。今後は、美術分野に限らず分野を広げ、市民がさまざまな文化芸術に身近に触れ、体験することができるよう、セミナーやワークショップ等を引き続き実施します。

#### ●アウトリーチ事業(仮称)\*

より多くの市民が文化芸術に触れる機会を得られるよう、民間や行政が企画するイベント等へ、希望に応じ演奏家や地域伝統芸能保存団体等を派遣し、演奏や芸能の披露を行うほか、実行委員会が独自に企画したこれまでにない視点による新たな文化の発信となるイベントを行います。

※アウトリーチ：公的機関や公的文化施設などが行う、地域への出張サービス

### 基本方針2 継承・活用・発展 ～「ここにしかない」文化資源を活用する～

#### ●かごしま伝統芸能ネットワーク会議

各地域の行事や祭りの課題や悩み、保存・伝承のために工夫していることなどの情報を交換、共有し、保存団体間の連携を図るため第1期プランで組織した「地域伝統芸能ネットワーク会議」を継続します。第2期プランでは、保存団体間の連携を一層図るとともに、保存団体が主体となり事業を推進していく体制づくりを行います。

#### ●地域での音楽と民俗芸能のイベント

地域の魅力の再発見と地域間の交流、地域の活性化につなげるために、会場となる学校や地域コミュニティー協議会、おやじの会などの協力のもとに、主に開催地域周辺で活動する音楽及び伝統芸能の団体が出演するイベントを実施します。



●音とあかりの散歩道（音楽とあかりと伝統芸能のイベント）

あかりや景観を生かし、新たなまちの魅力を創出するため、鹿児島県の歴史を感じさせる落ち着いた景観の文化ゾーンを会場（市立美術館前庭、かごしま近代文学館・メルヘン館中庭、探勝園、照国公園の4箇所）にあかりによる景観の演出やあかりの展示による幻想的な演奏空間のもとで、音楽や地域伝統芸能などを披露するイベントを実施します。

基本方針3 創造・交流 ～新たな地域文化を創造し、交流を図る～

●地域の文化芸術活動サポート事業（仮称）

文化団体等が行う自主的な文化活動を活性化するため、文化団体等の企画による文化事業（例 新たな文化創造につながると期待される事業等）について助成を行います。

●観光イベント等と連携した事業

平成29年度から33年度の間には、松本市や札幌市との文化観光交流協定締結5周年、明治維新150周年等の節目の到来や、東京オリンピック・パラリンピック、本県での国民体育大会等の大きなイベントが開催されるとともに、近年関心を集めているグリーンツーリズムや桜島ジオパークも今後ますます観光資源として注目されていくと予想されます。これらの観光振興事業と連携し、効果的な事業実施や情報発信に取り組みます。

基本方針4 情報の共有・発信 ～多くの文化情報を集め広くわかりやすく発信する～

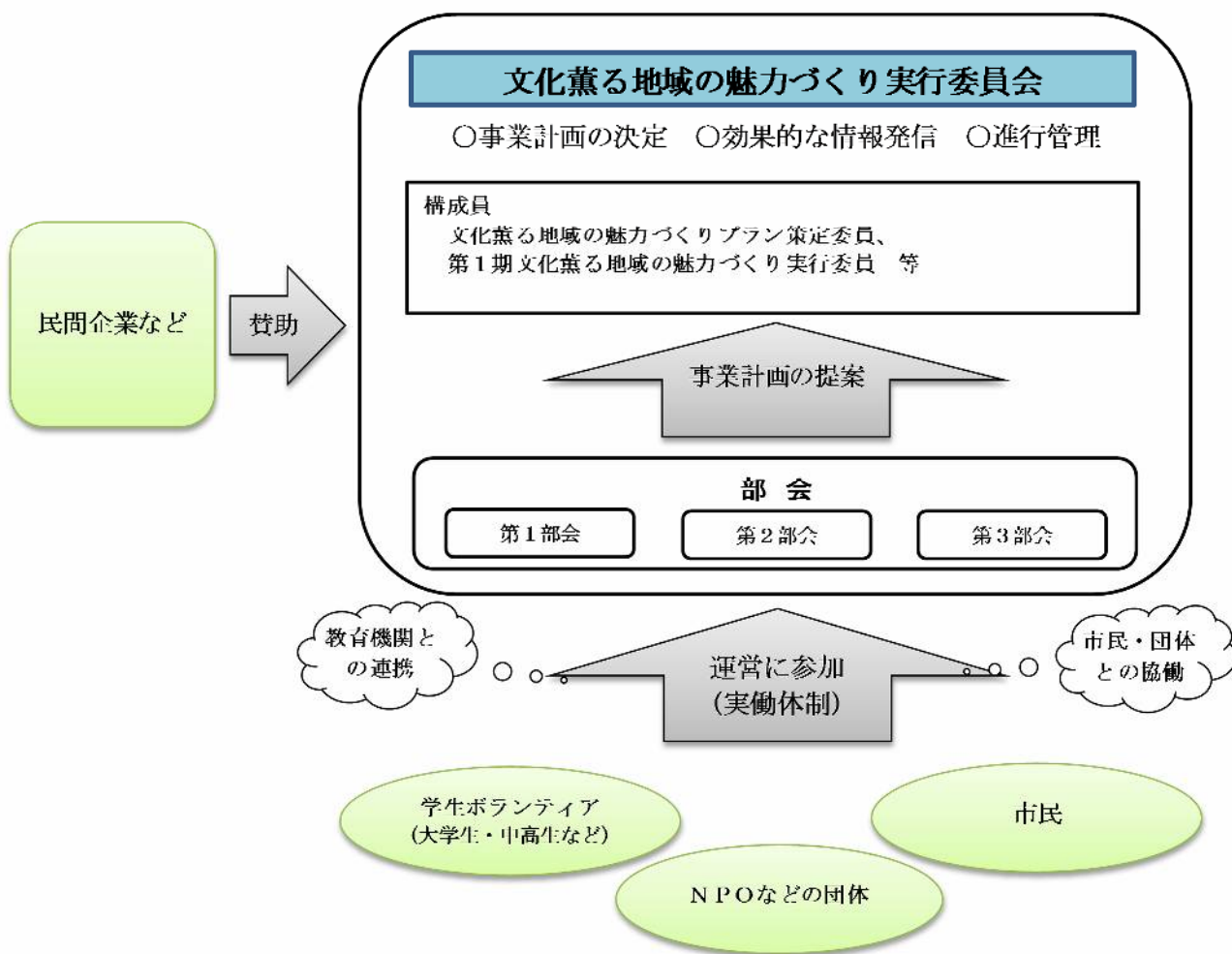
●K C I Cの運営

文化薫る地域の魅力づくりプラン（第1期）に基づき、文化情報の収集及び発信のため、また、アートサロンとして設置されたK C I Cについて、文化情報の収集・発信機能の強化等を図ります。

●市民アートギャラリーの活用

市役所みなと大通り別館1Fの市民アートギャラリーについては、本プランで実施するワークショップなどで使用していない時期に、高校生や大学生、高齢者などが作成した絵画や書などの作品を展示し、文化活動の成果発表の場として活用することにより、文化活動の活性化や幅広い年代の市民向けに文化情報の発信を行います。

## 10 プランの推進体制



(部会が所管する主な分野)

第1部会	第2部会	第3部会
文学、音楽、演劇、舞踊、講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱、囲碁、将棋等	美術、写真、映画、漫画、アニメーション、書道、コンピュータ等を利用した芸術等	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、日本古来の伝統芸能、地域固有の民俗芸能、茶道、華道等

## 11 プランの推進スケジュール

本プランに掲げる重点事業は、以下のスケジュールを基本に進めます。

基本方針	年度	H29	H30	H31	H32	H33
	周年事業 文化関連イベント 主要事業	(松本市) ●文化・観光交流協定5周年	(札幌市) ●文化・観光交流協定5周年 ●明治維新150周年	●谷山サザンホール開館30周年 ●合併15周年	●東京オリンピック・パラリンピック ●かごしま国体	
人づくり 体制づくり	地域伝統芸能についての学びや担い手間の交流を図る事業	見直し・企画	実施		継続・見直し	
	セミナー・ワークショップ事業(仮称)	企画	実施		継続・見直し	
	アウトリーチ事業(仮称)(新規)	企画	実施		継続・見直し	
継承・活用・発展	かごしま伝統芸能ネットワーク会議		継続・見直し			
	音とあかりの散歩道		継続・見直し			
	地域での音楽と民俗芸能のイベント		継続・見直し			
創造・交流	地域の文化芸術活動サポート事業(仮称)(新規)	情報収集・企画	実施		継続・見直し	
	観光イベント等と連携した事業(新規)		情報収集・企画・実施・見直し			
情報の共有・発信	かごしま文化情報センターの運営		継続・見直し			
	市民アートギャラリーの活用(新規)	企画		実施		

※実施段階においては、実行委員会での検討状況や予算上の制約などにより、スケジュールや個別の取組内容を見直すことも想定されます。

## 12 目標設定と評価

### (1) 第五次総合計画における数値目標

第五次総合計画においては、本プランの推進事業を含む基本施策「市民文化の創造」の文化振興に関する数値目標として、以下の2つの指標が定められています。

基本目標	まなび文化政策	基本施策	市民文化の創造
------	---------	------	---------

#### ○数値目標

指 標	現況 (H28)	目標 (H33)	算出方法等
「文化芸術などに親しみ、身近に体験できる環境が整っている」と感じる市民の割合	52.2%	65.0%	市民意識アンケート調査
市民文化祭等への参加者数※	31,638 人	46,000 人	

※本プランによる事業の参加者数を含む。

### (2) プランでの数値目標の取扱い

本プランの数値目標としては、プランで実施する事業の参加者数やK C I Cのホームページアクセス数などが考えられるが、年度によって実施する事業内容が異なるものや明治維新150周年事業などのように単年度で実施するものも多く、一律の数値設定になじまないことから、プランの計画期間全体の数値目標設定は行わないこととします。

ただし、各事業においては、第1期プランでの事業の実績や第五次総合計画における数値目標等を参考に、前年度末に策定する事業計画の中で、各事業の参加者数など目標とする数値を定め、その実現に向け取組みます。